長野県における周溝墓について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2940

「長野県における周溝墓について」

織田 真理子

本稿では県全域の周溝墓の様相を概観し、周溝墓の流入元を明らかにすることを試みた。　分析の結果、千曲川水系の円形周溝墓が、弥生終末期から古墳初頭に方形へ一転する様相が見られた。そして、松本平では中間地域としての複雑な様相を呈しているということが明らかになった。また、平面規模と幅と深さについても検討してみた結果、弥生と古墳時代に階層差が見られた。特に円形周溝墓は、時期と規模において二分された。

考察により、円形は日本海側から千曲川水系へ、方形は東海地方から天竜川水系へ、それぞれ異なった経路で流入したことが明らかになった。また千曲川水系の形態における一転の原因は、東海地方の影響が考えられた。一方、天竜川水系の弥生の円形は東海地方から、古墳中期の大型円形は時代背景から畿内の影響が想定された。このように長野県における周溝墓の変化は、外来からの影響を受けた結果によるものと考えられるのである。



長野県　田村原遺跡
2 号方形周溝墓(S=1/600)